

関西支部

「関西支部発足 六十周年」

支部長 風 早 昭  
(建築科 昭和四十一年卒業)



会員の皆様には、新年をご家族お揃いで迎えられる事とお慶び申し上げます。

昨年は、夏の猛暑と記録的な豪雨で水害が各地で発生し大変な年でした。又、国外ではパリの同時多発テロが起こり世界中を震撼させたのは記憶に新しいことです。一方、昨年も二人のノーベル賞受賞者が出た事は嬉しいニュースでした。生理学・医学賞の大村智さん、物理学賞の梶田隆章さん、二人とも科学者の受賞で、科学立国日本の面目躍如といったところでしよう。

我々の母校江工は、少子化の影響で生徒数の減少が続きます。学校からの情報では、二十八年度の募集定員は百二十人三学級から八十人二学級に削減するとの事で、一抹の寂しさを感じます。

さて私たちの関西支部では、支部発足六十周年の記念

総会を今年開催します。私自身関西支部の活動に参加したのが、昭和五十四年からです。それから現在までは毎年総会が続いていますが、それまでの経緯は分かりませんでした。以前、(平成十三年頃)支部総会の横断幕に回数を付けようという事になり、支部として何年頃から活動しているか詳しいことを知る先輩(建築科十八年卒業・岡本博毅さん)に伺ったことがありました。先輩の話では、昭和二十五年頃、母校江工で勤めていた田中民治さん(建築科二十年卒業・故人)が学校を辞めて関西に出て卒業生同士の交流を持たれ、やがて関西支部としての活動を始めたのだらう、それが三十年頃からであったとの事でした。そこで我々は支部発足を昭和三十一年とし、以来今年で六十周年ということになりました。今回は、記念総会なので、勿論石見神楽(都治神楽社中)をお願いしています。

私達石見の人間は、めでたい席や慶び事には決まって神楽を舞ってもらいます。あの勇壮な八調子の太鼓が本当に好きなのでしよう。今回は総会の会場も昨年までの弥生会館からJ.R尼崎駅前「ホテル・

ホップインアミング」に変わり開催します。支部役員も来たる六月四日の総会に向け頑張る準備中です。江工会員の皆さん、同級生又ご友人をお誘いして頂きは非、参加してください。お待ちしております。

山口県支部



関西支部総会

江工会本部に

寄せる思い

支部長 大屋節雄(岩国工業化学科 昭和三十八年卒業)



皆様、あけましておめでとうございます。今年の冬は暖冬と言われており、この

ところ小春日和が続いております。さて、今年の江津工業高校は三学科から二学科に縮小されるのか、少子化の影響と理解出来るのですが、寂しい話で心配しております。これからの江津工業高校は、学校サイドの方を中心に父兄の方、地元の方、卒業OB生がスクラムを組んで江津工業高校の存続・発展に寄与すべきものと考えております。

山口県支部も、毎年開く総会は、高齢化と共に参加者が少なくなっていますが、そのかわり参加する者はお互い気心した仲で、大いに盛り上がっております。二十七年は岩国錦帯橋近くの吉田旅館で第五十四回目の総会を開催しました。本部より松浦三男副会長、吾郷信博教頭先生、倉本晃先生をお迎えしました。また九州支部からは、大草会長以下二名をお迎えし二十五名の参加者で盛大な総会となりました。二十八年は徳山のホテルサンルート徳山で二月二十八日に総会を開催すべく準備を進めているところです。

このおめでたい時期に計報のお話で申し訳ありませんが、昨年十二月に長年にわたる江工会山口県支部長を務め

られていた上田博祥先輩(建築科昭和三十三年卒業)が他界されました。一昨年他界されました吉崎錦明先輩(建築科昭和三十一年卒業)と共に山口県支部を支えていただいていた大きな二つの柱を失った残念でなりません。ご冥福をお祈りすると共に、残された者で山口県支部を引き続き盛り上げたいと思っております。どうぞよろしくお願いします。

最後に江工会本部の益々の発展と皆様方のご多幸をお祈りしています。



山口県支部総会



九州支部

二〇一五年を

振り返って

支部長 大草 正

(建築科 昭和三十一年卒業)



江工会会員の皆様あけましておめでと  
うございま

す。良い年を迎えられた事とお慶び申し上げます。

昨年も事件、事故が多発しております。イスラム国による人質事件、青少年達の犯罪、鬼怒川堤防欠壊による大水害、パリ同時多発テロ、安保関連法案の可決、ラグビー南アフリカ戦の勝利等いろいろな事がありました。母校にも、県立高等学校再編成と建築科の在り方について検討が始まり、母校存続の危機にあります。

昨年八月十四日江工会情報意見交換会が開催され出席してまいりました。工業立国日本の教育の基本となる工業高校の存続は、是非とも必要な事と思うと同時に生徒の募集に知恵をしまり、地方創生の支援を味方に頑張っていただき、校歌、応援歌を続けて歌える様にお願ひするものです。

我が九州支部も平成二十七年三月七日、北九州市小倉北区のクラウンパレス小倉にて、大賀美校長、池田副会長、山口支部より四名様を迎え、十二名ながら盛大に総会を無事行う事が出来ました。今年も支部活性化の為、全員で努力していく所存です。最後になりましたが、会員の皆様方のご健勝と母校の存続と発展を江工会会員として心よりお祈り申し上げます。



九州支部総会

同窓会

十月十七日

建築科四十年卒

卒業五十周年を迎えクラス会を益田市横田、渡辺旅館にて開催。地元、山口、岡山、名古屋、東京等から十八名が集まり昔話しに花を咲かせました。足が痛い、腰が痛いとお互いをかばい合う中のお互い、益田料理に舌つづみ打ち、夜を明かしました。翌日十八日は、ゴルフ、観光と別れを惜しみながらも古希での再会を誓った。母校の存続することを期待しております。

塚本 清

事務局だより

平成二十七年 一月〜十二月

二〇一五(平成二十七年)

二月二十日

会報四十九号発行

県内外各支部、卒業生在籍地元企業、現旧教職員、在校生、同窓会等に配布。

二月二十二日

関東支部総会

五反田・ゆうほうとにて開催。

西村 和也 支部長(建築科四十七年卒) はじめ八十名の会員の出席。

来賓として、関西支部より支部長 風早 昭氏(建築科四十一年卒)、中本 臣氏(建築科四十三年卒)、江津支部より事務局長の横田 学氏(工化科四十三年卒)、島根県東京事務所より二名の出席。

総会では、前年度の活動(事業)や決算の報告、本年度の活動(事業)計画や予算についての審議。懇親会では、アトラクシオンとして、演歌歌手・山崎ていじ氏(建築科五十一年卒)による熱演が演じられ、大変盛り上がった。

二月二十七日

新卒者入会式



二月二十二日

山口県支部総会

岩国・吉田旅館にて開催。静間 康夫 副支部長(木工科三十年卒) はじめ二十三名の会員の出席。懇親会では、アトラクシオンとして、「岩国城の歌」を作曲された藤兼利彦氏の独唱、カラオケ大会等で大変盛り上がり上った。



二月二十七日

新卒者入会式

江工会入会式(平成二十六年卒業生八十九名) 江工会会長 土井 正人氏

(工業化学科三十四年卒)より式辞をいただく。



三月七日

九州支部総会

ホテルクラウンパレス小倉にて開催。

大草 正 支部長(建築科三十二年卒) 十二名の会員の出席。また山口県支部より四名が出席された。

三月八日

弥栄支部総会

ふるさと体験村にて開催。

大谷 十三一 支部長(工化科四十五年卒) はじめ九名の会員の出席。

懇親会では、総勢十二名本部三人含)の出席。高校時代の思い出話、最後は校歌、応援歌を全員で歌い大変盛り上がった。

四月二十四日

江津市役所支部総会

パレス和光にて開催。

藤田 佳久 支部長(建築科四十九年卒) はじめ十三名の会員の出席。



総会では、二十五年度・二十六年度の活動(事業)や決算の報告、本年度の活動(事業)計画や予算についての審議。二年の任期を経て、支部役員の改選が行われ、新支部長として島田博氏(建築科五十一年卒)が選出された。

五月九日

江工会理事会・総会

理事会では、土井 正人 会長(工化科三十九年卒)の挨拶から始まり、二十六年事業・決算報告、二十七年事業・予算審議。江工会会則の改定など、すべての議案が承認された。

懇親会では、各支部からの出席もあり親交を深めることができた。

六月六日

関西支部総会

風早 昭 支部長(建築科四十一年卒) はじめ五十四名の会員の出席。



来賓として、関東支部より西村 和也 支部長(建築科四十七年卒)、福田 豊一氏(建築科五十一年卒)の二名の出席。また、江津支部より横田 学 事務局長(工化科四十三年卒)が出席。

六月十三日

浜田支部総会

ジョイプラザにて開催。

松浦 三男 支部長(電気科四十年卒) はじめ三十名の会員の出席。



懇親会には、総勢三十一名の出席があり、最後には、佐々木 敏博 事務局長(機械科四十二年卒)によるトランペット演奏にて、応援歌、校歌を歌い、大変盛り上がった。

十一月二十七日

益田支部総会

居酒屋いろりにて開催。佐々木 忠之 支部長(電気科三十九年卒) はじめ十五名の会員の出席。



計 報

謹んでお悔やみ申し上げます。

旧職員

- 難波 正男(建築S17年卒)
- 平田 義隆(建築②S17年卒)
- 花田 文人
- 西村喜代三(建築S26年卒)
- 西田 武夫(建築S28年卒)
- 上田 博祥(建築S33年卒)
- 高住 正和(機械S36年卒)
- 勝手 豊(機械S50年卒)
- 小川 雅志(総電H19年卒)

編集後記

多忙な折り、快くご寄稿いただきましたこと、厚くお礼申し上げます。おかげさまで第五十号を発行することができました。

一面の写真は、校歌でも歌われている、現在のつぬの浦の様子です。昔より砂浜、松林がすくなくなつたのではないのでしょうか。

今後とも、会報に対しましてご意見、情報等(同窓会報告、会員消息等)がございましたら事務局へご連絡をお願い致します。(事務局 石井)

## 平成26年度 江工会一般会計 決算書

(単位 円)

## 1. 収入の部

項 目	予算額	補正額	補正後予算額	決算額	差 引	備 考
1 繰越金	827,568	0	827,568	827,568	0	H25年度一般会計より
2 会費・入会金	961,200	0	961,200	941,455	19,745	H26年度卒業生終身会費
3 寄付金	10,000	0	10,000	34,200	-24,200	関東・関西・名簿購入
4 繰入金	0	0	0	0	0	
5 雑収入	232	0	232	109	123	預金利息
収入合計	1,799,000	0	1,799,000	1,803,332	-4,332	

(単位 円)

## 2. 支出の部

項 目	予算額	補正額	補正後予算額	決算額	差 引	備 考
1 工業教育振興会費	10,000	0	10,000	10,000	0	県高校工業教育研究会へ
2 会報発行費	180,000	0	180,000	0	180,000	2000部発行 未精算
3 記念品費	45,000	0	45,000	41,118	3,882	卒業証書用角筒
4 会館運営費助成	150,000	0	150,000	150,000	0	会館運営会計へ
5 通信費	25,000	0	25,000	24,044	956	総会案内・会報発送
6 旅費	350,000	0	350,000	246,520	103,480	各支部総会出席旅費
7 会議費	200,000	0	200,000	153,883	46,117	各支部総会御祝い
8 慶弔費	30,000	0	30,000	22,355	7,645	祝電・弔電
9 雑費	30,000	0	30,000	6,480	23,520	広告料
10 積立金	0	0	0	0	0	
11 予備費	779,000	0	779,000	0	779,000	
支出合計	1,799,000	0	1,799,000	654,400	1,144,600	

収入総額 ¥1,803,332円 - 支出総額 ¥654,400円 = 差引残額 ¥1,148,932円

## 平成27年度 江工会一般会計 予算書

(単位 円)

## 1. 収入の部

項 目	予算額	補正額	補正後予算額	前年度当初予算額	増 減	備 考
1 繰越金	1,148,932	0	1,148,932	827,568	321,364	H26年度一般会計より
2 会費・入会金	831,600	0	831,600	961,200	-129,600	H27年度卒業予定者 77名分×10,800円
3 寄付金	10,000	0	10,000	10,000	0	支部からの御祝い
4 繰入金	0	0	0	0	0	積立金会計より繰入
5 雑収入	68	0	68	232	-164	預金利息
収入合計	1,990,600	0	1,990,600	1,799,000	191,600	

(単位 円)

## 2. 支出の部

項 目	予算額	補正額	補正後予算額	前年度当初予算額	増 減	備 考
1 工業教育振興会費	10,000	0	10,000	10,000	0	県高校工業教育研究会へ
2 会報発行費	360,000	0	360,000	180,000	180,000	第50号2,000部発行 H26年度未精算分含む
3 記念品費	46,200	0	46,200	45,000	1,200	卒業生への記念品 卒業証書用角筒
4 会館運営費助成	150,000	0	150,000	150,000	0	江工会館運営会計へ
5 通信費	25,000	0	25,000	25,000	0	総会案内・会報発送 他
6 旅費	350,000	0	350,000	350,000	0	理事会・支部訪問 他
7 会議費	200,000	0	200,000	200,000	0	本部・各支部総会出席
8 慶弔費	30,000	0	30,000	30,000	0	弔電・祝電
9 雑費	30,000	0	30,000	30,000	0	広告料 謝礼 他
10 積立金	0	0	0	0	0	
11 予備費	789,400	0	789,400	779,000	10,400	
支出合計	1,990,600	0	1,990,600	1,799,000	191,600	



# 江工会会報

発行所  
江 工 会

高根県江津市江津町1477  
高根県立江津工業高校内  
電話 (代) 0855-52-2120  
郵便番号 〒 695-0011

## 「新たな出発」

会 長 土 井 正 人

(工業化学科 昭和三十九年卒業)



二十八新春を迎え、皆様方には、ご健勝のこととお慶び申しあげます。

さて母校も少子化の波に勝てず、来年度から二クラス、

二学科に編成変えとなり、建築・電気科、機械・ロボット科としてそれぞれコース制が

選択されます。本当の小規模となり新しい時代に入っています。

学校の魅力化対策については、すでに学校教育支援委員会が設置されています

ので、これを拡大して、もう少し多くの方々に入っていた

だき考えていくこととしたいと思っ

ています。(例えば、生徒が直接小、中学校に向

いていき、江工の魅力伝えていく。また地元企業等に就

得て、小、中学校に江工での学習が、今の自分を活かしている事を伝えていただく。更には、ポリテクカレッジとの連携を密にして、地元就職を進めるなどが考えられています。

今一つ卒業生会(江工会)の会則につきましては、このように考えていきたい。

一、理事の選出について、各支部の支部長、近年理事会に出席の方、地元企業で活躍されて

いる方々など人選し再編成したいと思

います。二、総会について、五月十六日の開校記念日に固定せず、

五月の中で最良の日に設定する。その他、慶弔規定の見直しなどを提案したいと思

っています。尚、卒業生減少の為、会費

ある企業を誘致・起業し、少

経費の節約(各支部総会への本部からの出席を隔年にするなど)で当面は対応する事を考えております。

各方面の卒業生の方々心配され、母校存続に対して熱いエールを送っていただ

いております。田舎における少子高齢化の波はとどまることが

ありません。地元の卒業生の皆様も含め、多くの市民の皆

様も市内の二つの公立高校についての今後を大変心配されて

います。そして何とか存続出来ないかと、模索している

状況の中、精一杯努力はしているのですが、何かと難しい

と思います。いずれ二校は無理との思いは持っていないが

らも、一校として残すとしたらどうすれば良いのか、具体的

な方針に至っていません。卒業生の方からアドバイスを

メール、FAX、TELなどで、市長、校長に送っていた

だいております。地元として

は、全て想定済みのこととして関係方面に要望もして

おります。まず二校をどのような形で一校とするの

かが見えてこない限り、具体的な提言に至りません。

この少子化の波をとどめるには、もつと魅力

する必要があると思います。卒業生の皆様もUターンやご友人のインターンの計画があるのならば、ぜひ会社・企業を連れて帰り、地元の人と一緒に努力されることを願っています。

さて江津市においては、人口二万四千五百人程となり、

高齢化も三十五%に達していますが、徐々に変化もしてい

ます。江津駅前今年八月には、複合公共施設が完成しま

す。昨年十二月二十五日には、収容七十五人のスパーホテルが開業しました。そして若

者が少しずつですが、動き始めており、江津に何かが起こりそうと期待もしています。市として生き残る為にも、少しでも多くの若者が残り、江津の将来に夢と希望を与えてくれることを願っています。

一年光を見るなら米を植

れ、十年光を見るなら木を植

えよ、百年光を見るなら人を

育てよ!と言われます。母校がその役を担っています。卒業生の皆様方のご支援を切に願

い、今年が良い年になることを期待をして挨拶とさせていただきます。



つめの浦

# 「現況報告」

校長 大賀美 周作



江工会員の皆様には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素より、本校の教育活動に格別のご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

九月に県教育委員会が来年度入学生の数減が発表し、学科改編を行うこととなりました。本年の入学生は、三科で六十二名という少ない人数となりました。ここ数年八十名前後で推移していましたが、浜田市の中学卒業生が大きく減少し、その影響を受け浜田市からの入学生が例年の半分となりました。定員百二十人で八十人前後の入学者が続いており、昨年度学級減の発表があった江津高校(二クラス)に続き、本校も来年度入学生より学級減となりました。建築科・機械科・総合電気科の三科三クラスを「建築・電気科」「機械・ロボト科」の二学科二クラスに改編します。この地域に、建築・機械・電気を学べる学習環境

を維持すべく現在の授業内容を堅持し、電気科の経産省電験三種認定校や建築科の国交省認定の二級建築士受験実務経験軽減などはそのまま活用できるカリキュラムとしています。

七十六名の三年生の進路は、六十七名(県内三十三名、県外三十四名)の者が就職を希望し、十月二十六日には全員内定が決まりました。県内では一番早かったと思います。残り九名の者が進学をめざしています。このように、本校生に期待して頂く企業は数多くあり、在校生諸君も問題行動も無く、部活動に資格取得に熱心に取り組み成果も上げています。良い雰囲気で高校生活を送っています。「高校の出口は沢山あるのに、入り口に人が集まらない。」という状況です。来年度入試では、江津・浜田地区中学卒業は六百八十名程度で、江津浜田の県立五校の定員は五百六十人、これに私立三校(江津・益田)で募集定員に対して生徒数は大幅に足

りず、この地域の県立高校すべてで定員割れをしています。各学校が、魅力化に取り組んではいませんが、絶対数が足りなく生徒募集は厳しい状況が今後も続きます。

江工の魅力化とは何か、どうしたら中学生が行きたい学校となるかを大人目線で出口の魅力を考えるのでは無く、中学生目線で入り口の魅力を考えることが重要であると感じます。小中学生の考え方やその保護者の思いを如何に把握でき、どう取り入れていくかが鍵となります。就職内定率一〇〇%を二十年以上維持していることでは、生徒が集まる魅力にはならなくなっています。今後は中学生の気持ちを重視した取り組みに力を傾けたいと考えています。今後も変わりますが江工会の皆様のご支援やご協力をお願いするとともに、皆様のご活躍とご健康をお祈りいたします。



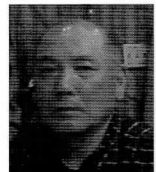
## 江工会 支部だより

### 江津支部

歴史を踏まえ 新たな歴史づくりに 果敢に挑戦を!!

事務局長 横田 学

(工業化学科 昭和四十三年卒業)



歴史と伝統のある江工も栄枯盛衰! 一クラス減で二

クラス八十人の規模に縮小、非常に厳しい事であるが、これも現実、新たな工業高校の魅力化によって地域から愛される学校づくりに期待する。 昨年度の取組みについて ① 関東支部年次総会出席 二月二十二日(日) 於…西五反田ゆうほうと 土井会長、大賀美校長 横田 等出席

② 関西支部年次総会出席 六月六日(土) 於…大阪弥生会館 土井会長、高月先生 横田 等出席

③ 江津地区中高生合同夏合宿 八月四日(火)～五日(水)

於…風の国 江津工業生・江津高校生・桜江中生・江東中生・江中生・青陵中生 六校二十四名参加 地元企業(石州瓦・しちだ教育研究所)を見学し、江津市の課題と併せて企業課題を明確にしてその対策を発表した。

④ 江津工業高校生とポリテク生の合同企業ガイダンス 十月二十六日(月) 於…江津工業体育館 地元企業十七社参加による石見地域産業を支える人材育成校として認識を新たにすると生徒の意識高揚を狙って開催した。(百七十三名参加)



参加者も3名若手支部 先輩大歓迎!

合同企業ガイダンス

江津市役所支部

支部の報告

支部長 島 田 博

(建築科 昭和五十一年卒業)



会員の皆様

におかれましては、お健やかに新年を迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年、藤田前支部長より、次はお前だと指名され、本庁以外から支部長の前例が無く全く予定もしておりませんでした。先輩から言われて断ることは出来ない校風を受け継ぎ、本庁事務局の協力を得ることを前提に支部長を引き受けました。

さて、江津市では駅前地区再開発事業の拠点の一つである「スーパーホテル江津駅前」が昨年末に開業しました。天然温泉が売りのようです。帰郷の際は是非ご利用ください。

私たちが江津市役所支部は、市役所と江津邑智消防組合で構成しており、会員はピーク時の七十数名から年々減少し現在、市役所十四名、消防五名の総勢十九名の少数ではあります。安心・安全な市民生活のため災害対応や災害復

旧、駅前地区再開発整備事業の推進に各部署で中心的な役割を担っており、母校の校訓である『質実剛健・不撓不屈』の精神を胸に、江津市発展のため頑張っているところ

です。我が母校は県立高校再編により、新年度から建築科と総合電気科が合科され、建築・電気科と機械・ロボット科の二学科となり、一学級減ではあります。併し江津高校との合併はひとまず回避された状況のようです。

最後にありますが、江工会員の皆様さらなるご活躍とご健勝を祈念いたします。追伸、歌手の「山崎ていじ」氏は、建築科の同期です。二月三日に新曲が発売されます。宜しくお願います。



江工会市役所支部歓送迎会

浜田支部

青春を謳歌した

我が母校によせて

幹事 道 下 文 男

(機械科 昭和四十五年卒業)



私の実家

は、日本海ですぐ近くにあります、小さいころから海が好きであった。やがて中学生になると、同じ海岸端の一つ年上の先輩が持つていたオートバイに遊ぶ興味を持ち、広場で乗せてもらったり、二人がかりで分解修理をしたり、徹底してのぼせたものであった。

そういうわけで、高校進学の際には、水高も視野に入れたが、担任の先生から極めて厳しい選択であるとの指摘があったが、江工の機械科をあえて選択し、平素では考えられない入試に向け勉強した思いがある。又、長男が機械科の十一期生、次男が電気科の五期生ということも江工を選択した要因でもあった。

そうして待望の機械科に入學し、県内出身の多くの仲間との出会い、一方で体育祭などでの先輩からのいやといふほどの締められなど三年

間、青春を存分に謳歌したと思っている。

その私が入学した昭和四十二年は全校生徒八百七十七名、卒業した四十五年が八百十四名であった。そして現在は、全校生徒二百二十名あたりで推移していることとであり、重ねがさね人口減少のひずみを思いしらされると同時に、江工会浜田支部の一員として青春を謳歌した母校の繁栄復活を願わざるを得ないと痛感している次第である。

益田支部

支部報告及び心情

高山 宏 光

(建築科 昭和四十一年卒業)



新年明けましておめでとうございませう。江工会の

会員の皆様には、益々のご清栄のこととお慶び申し上げます。

昨年の十一月二十七日に益田支部定期総会を開催しました。在学当時の話、長時間汽車に揺られて通学した話等々お酒を酌み交わしながら歓談しました。お酒の力、勢いを借りまして夜の街に繰り出し、さらに懇親を深めて解散となりました。

総会では、会長の土井様、事務局の楫野様に益田までおいでいただき、江工の近況等の説明をしていただき心が痛みました。毎年毎年、近況等の説明を受けてはいましたが、少人数化による社会の変化に対応していただきたいという思いでおりました。

昨年の十一月二十九日の新聞で、江工の将来像討論を読ませていただき、いろんな良い意見、案が出ておりました。



浜田支部総会



それが現実となればと思いは安堵しました。最後になりましたが、母校の更なる発展と、会員皆様の活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。



益田支部総会

### 弥栄支部

#### 新年を迎えて

支部長 大谷 十三一  
(工業化学科 昭和四十五年卒業)



江工会員の皆様、明けましておめでとうございます。どうぞいませ。新年を迎え益々ご健勝にご活躍の事と思います。

一昨年も自然の猛威を痛感させられました。昨年も自然の猛威を感じさせる一年となりました。「数年に一度、数十年に一度」とか「今まで

に経験のない」という言葉も年々多く聞くような感じがします。特に沖縄・九州地方での台風、九月に発生した関東・東北地方を中心とした豪雨は家屋等に甚大な被害を与えました。それぞれ被害を受けられた方々には、お見舞いを申し上げますとともに一刻も早い復旧・復興を願うものです。

例年ですと、当地弥栄においては積雪があり、厳しい寒さとなっているのが当たり前のはずが、年末から今日現在(十日)までは、積雪もない状況です。異常気象の前触れかもしれません。近年想定外の豪雨とか台風等で全国的に被害が発生しており、そうしたことがない平穏な年になるよう願っております。

弥栄支部では、昨年も三月八日に土井江工会会長様、大賀美学校長、松浦江工会浜田支部長にお出掛けを頂き定期総会を開催しました。総会終了後は、地酒を酌み交わしての懇親会となりました。本年度も支部会員に呼びかけを行い実施する予定です。

最後になりましたが、会員皆様方のご健勝と母校の益々の発展を心からお祈りし挨拶と致します。



弥栄支部総会

### 関東支部

#### 母校の存続に向けて

支部長 西村 和也  
(建築科 昭和四十七年卒業)



あけましておめでとうございます。江工会員の皆様も健やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

さて一昨年十月、母校開校八十周年記念行事が盛大に挙行され、今後九十、百周年記念行事が開催できるよう継続、発展を願いました。その後、『江津市県立二高校のあり方検討会』が発足され、昨年三月、江津市長へ近い将来、県の学校再編成基準計画の統廃合基準に該当する可能性があることや、高校魅力化コー

ディネーターの設置による県への情報発信手法の必要性が指摘されました。また高校の衰退は、地域経済への影響も多くデメリットの発生は避けるべきと結ばれています。

我々は、早速四月の役員会でこの問題について協議をし、八名のパブリックコメントを江津市宛に送付し、存続の必要性を訴えてきました。五月の本部総会では、母校存続への協議会の発足を議題として提案しました。また六月に六支部連盟の嘆願書を本部へ提出することで、八月十四日に情報・意見交換会を開催してもうかがうことができ、出席者の多くの方から存続に向けた協議会の早期設立の要望がありました。しかしながらその後、進展もなく今日を迎えていることは残念です。九月四日、県教育委員会から母校の定員削減(百二十名から八十名)と学科再編(建築・機械・総合電気科の三学科から『建築・電気科+機械・ロボット科』の二学科に縮小)の発表があり、二十八年度から施行されることになりました。一学年二学科となったことで、県の学校再編成基本計画の統廃合基準の対象高校になります。あの『旭光燦たる星高山と…』

の校歌や『江の川流れて三千年…』をはじめ浜辺で怒鳴った応援歌が消えてしまうことは阻止したいものです。母校を存続させたいとの強い願望があり『今こそ本部、支部が一丸になって知恵を結集し』、

早急に対処しなければ取り返せせない結果を懸念しています。地元は何かと活動の縛りがあるとは思いますが、江工会本部をはじめ江津支部の強いリーダーシップを期待するものです。そのために我々は、今まで多くの提案もしてきましたし、今後もいかなる支援・協力も惜しみません。江工会会員が一丸となって母校存続に向け『強い意志・想い』を発信すべきと考えます。



関東支部総会